

過去と未来をつなぐ駅

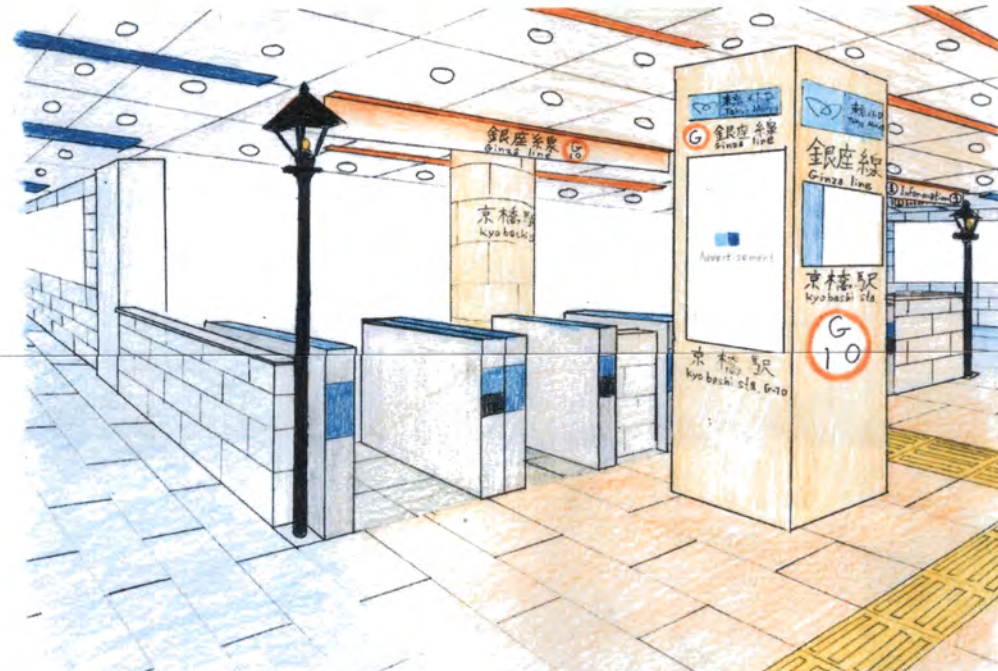
エリア共通イメージは、灯、石。
文明開化以降、このエリアはモダンに発展した。
灯と石は、発展に欠かせなかった。

望ましい経験のあり方

ユーザー像 半蔵門線沿線に住む40代・シングルマザー。大手町に勤めている。

京橋駅

今日は京橋で取引先の企業との打ち合わせがあるので、久しぶりに銀座線に乗った。ドアが開くと、水色に照らされた天井がまるで空が見えているような雰囲気を感じていた。約束の時間が迫っていたため、急いで待ち合わせの場所へ向かった。打ち合わせは思った以上に長引いてしまい、帰るころには日も傾いていた。改札へ向かった。青い照明が近未来的でかっこいい。改札の場所はオレンジ色の照明ですぐに分かった。ホームへ向かう階段を下りようとした時、電話が鳴った。友達から。「今京橋にいるんだけど、あとで食事でもしない？」私はホームで待ち合わせをすることに。「天井の色、オレンジ色だったっけ…」ぼんやりとホームの天井を眺めて待っていた。やがて、友達が到着した。「この駅、ホームの真ん中にある案内板が撤去されたおかげで、車いすで通りやすくなったんだよ。」友達が話してきた。「そうなんだ…。そういえば、天井の色がさっきと違うような気がするんだけど…」「確かに。朝僕が来たときは、水色だった。日が暮れたってことは、もう夜なのかあ…」「この駅は太陽と共に時を刻んでいるのね。車いす押してあげる。」この後、二人は仲良く黄色い電車に乗って食事に行きました。



コンコース全体を白色のダウンライトと紺色の照明で照らし、改札付近をラインカラーで照らすことで、改札部が浮かび上がって見える仕掛けにします。

三越前駅

「今日、買い物しない？、三越前駅で待っているね」友達からメールが来た。「いいよ、どこで待ち合わせする？」私はメールを返信し、家を出た。「次は、三越前、三越前」いつのまにか三越前に着いた。「よく寝た…」頭がぼんやりする中、駅に降りると、派手な内装の中に落ち着いた雰囲気を感じて、まるでデパートの中にいるような気がした。友達との待ち合わせしている出口が分からず、駅の案内板を見た。案内板にはタッチパネルが取り付けられていた。「便利になったものね。」私は端末にタッチしてみた。メトロについていろいろ調べられるようだ。私は駅出入口案内を見ました。この機械のおかげで、友達が待っている場所がすぐに分かりました。その後私は迷うことなく友達と合流して、買い物を思う存分楽しむことができました。



三越前駅はもともとデパートの玄関口として作られた駅なので、駅は豪華にかつ落ち着いた装飾をします。改札階の案内表示器の枠と案内所の壁には、吉兆をもたらす幻獣である鳳凰を描きます。



ホーム天井には、金属でできた幾何学模様の照明カバーを取り付けます。柱上部を稲穂をあしらったデザインとし、和洋融合を試みます。ホームドアは、乗降部を金色とし、固定部を黒色とすることで、ホームドアのドア部を分かりやすくします。

日本橋駅

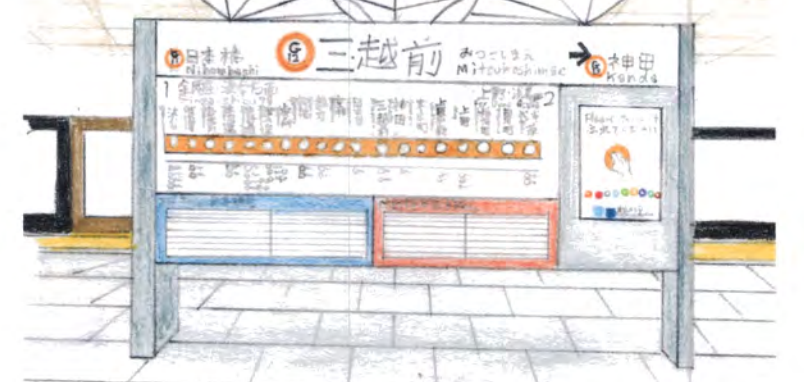
仕事が休みの日、私は息子とどこかに遊びに行こうと思った。「東京駅へ行こうよ。」私は息子を誘った。「いいよ！」「ママ、昨日ね、東京駅とか日本橋のこと、学校で勉強したんだ！」「じゃあ、日本橋、見に行ってみようか！」「昔の日本橋って、木でできていたんだって！」息子が昨日学校で勉強したことを私に得意げに話してくれた。楽しく散歩をしていると、日本橋が見えた。「あれが日本橋だよ。」「わあ〜」息子ははしゃいでいる。「ママ、ドラゴンさんがいるよ！わあ〜かっこいいな。」息子が橋の中央にいる銅像に見とれている。「あれはね、翼がある麒麟さんだよ。」私は息子にやさしく教えてあげた。その後二人で日本橋の駅に入る階段を下りた。そこは、私の知っている駅ではなかった。あたたかみ明治時代を彷彿とさせる、装飾が美しい石造りの駅だった。改札を抜け、銀座線のホームへ降りた。ホームはまるで江戸の街並みが広がっているかのようだった。「私たち江戸の町に迷い込んでしまったわ。」しばらくすると黄色い電車がやってきた。しかし、この空間をもう少し楽しんでいたい。私たちは次の電車来るまで、まるで江戸の町にいるようなこの空間を楽しみました。



改札階は明治時代に建設された日本橋をイメージして、石造りの壁や床を用いて明治時代の重厚感を表現します。また改札の案内表示は、階段の位置に合わせて、この改札(正面が銀座線)であれば中央に銀座線、左右に東西線を配置し、直感的に分かるようにします



壁面には、モザイクアートと化粧板を併用したものと、三越前駅の特徴である、3本のラインをデザインに取り入れます。また、駅名標の上部にはMマークをデザインとして入れます。さらに東京地下鉄道のマークや、麒麟や龍などの幻想動物をあしらったモザイクの一部に加えたいと思います。



案内表示板は、東京メトロ標準型の横に情報端末を取り付けた形として他駅との整合性をあわせつつ、利便性を上げます。

それぞれのラインカラーで駅名看板を照らすことで、直感的にどの路線が止まる駅なのかを分かるようにします。



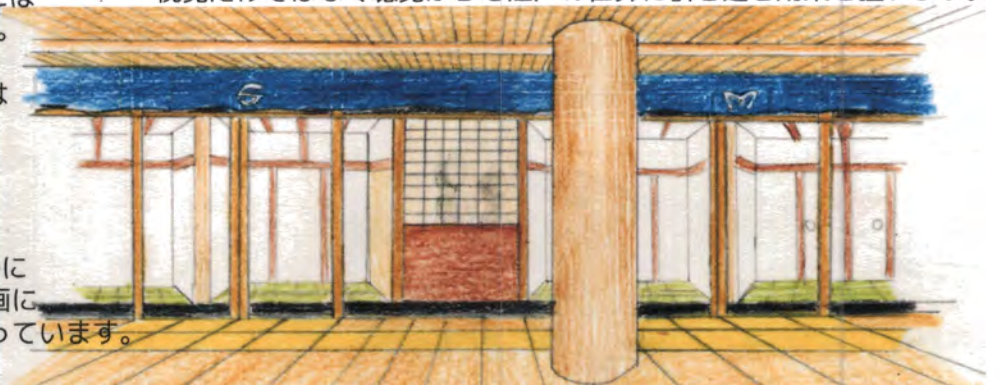
空に見立てたホーム天井は時とともに色が変わり、さまざまな表情を見せます。

ホームの幅が狭いので、ホームドアの一部に案内板、駅名標を埋め込むことで通行をやすく、また圧迫感を軽減します。

京橋駅 Kyobashi Sta. G-10

日本橋駅 Nihombashi Sta. G-11

内装は土を連想させる色の床、ホームドアと壁と天井は木目調とし、トンネル壁には、当時のお店の内部をイメージさせる壁画を貼り付けます。またホームドア上部に間接照明でラインカラーを照らします。発車メロディは和楽器を用いることで、視覚だけではなく聴覚からも江戸の世界に引き込む効果を狙います。



現代風の駅入口を下りると、明治時代風の改札階が現われます。改札やホーム階へ向かう階段にはレトロな電灯が立っています。

その階段を下りると、そこは江戸時代の日本橋を彷彿とさせるデザインのホームが現われます。

1番線ホーム
壁画の合間に2番線の椅子に座った人の影が見え、壁画に動きを与える仕掛けになっています。

天井近くまであるホームドアは、現実世界(車内)と江戸時代とを分ける扉を表現しています。ホームドア上には、当時の日本橋の街並みの象徴である、青いのれんを取り付けることで更に乗客を江戸の世界へと引き込みます。地元の商店のロゴをこののれんに描くことでさらにこの世界へ引き込むことができます。